

# サンゴメンテナンスの活動報告 2025

## TOPIC

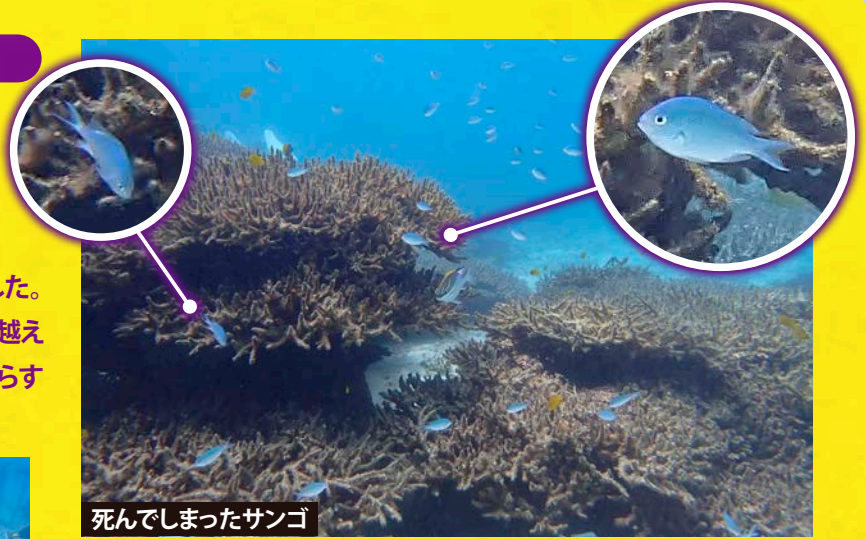
### 2024年の大規模 サンゴ死滅のその後…

この1年を境に、海の景観はがらりと変わりました。残念ながら死んでしまったサンゴ、白化を乗り越え生き残ったサンゴ。そのサンゴたちと周囲に暮らす生き物たちの様子をご紹介します。



死んでしまったサンゴ

テーブル状のサンゴの間隙で休んでいる魚



死んでしまったサンゴ

サンゴの近くで泳ぐスズメダイ類の成魚たち

#### 残念ながら死んでしまったサンゴ

死んだサンゴの骨格は藻に覆われていきます。しかしサンゴの骨格はそのまま残るので、死んでしまったサンゴの骨格は生き物たちの隠れ家となっていました。サンゴの複雑な構造は、死んでもなお生き物たちの暮らしの場になっているのです。



生き残ったサンゴ

幼魚から成魚まで様々なサイズの魚たちを確認

#### 白化を乗り越え生き残ったサンゴ

多くの生き物たちがサンゴの周囲で暮らしていました。画像を見比べてみても、その生物数は圧倒的です！健全なサンゴの周りには生まれてまもない幼魚の姿も観察されました。

サンゴの粘液などは、小さな生き物たち（小魚やエビ、微生物など）のエサになることもあるため、健全なサンゴは、生き物たちの隠れ場所や棲む場所以外に、栄養を供給しているという側面があるのかもしれない。

スタッフ一言メモ

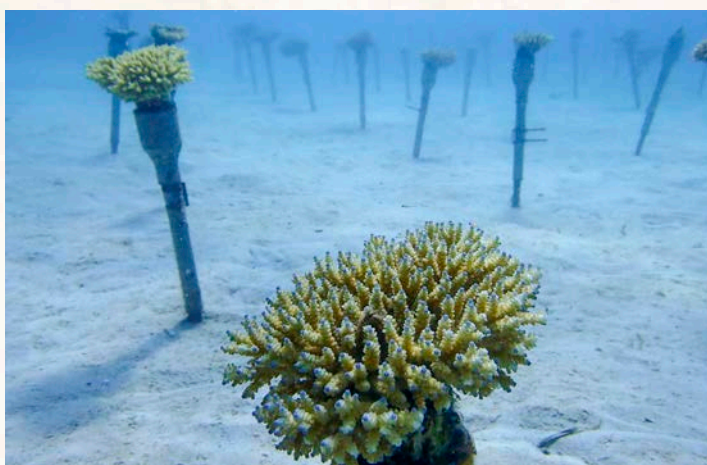


一見、いつも穏やかな海も、水中に潜ると色々な気づきがあるものです。活動を通して思うのは、何事もバランスが大切だということ。サンゴの外敵であるオニヒトデや巻貝も、駆逐することが正解ではなく、逆にサンゴだけを保全して増やし続けてもどこかで海全体のバランスが崩れてしまいます。サンゴプロジェクトを通して、サンゴを守るだけでなく、ひいては豊かな海をつくっていくこと、それを水族館来場者のみなさまに発信することに繋げていきたいと思っています。(H.K)

## サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

2024年9月から半年ぶりの  
サンゴの確認…その結果は!?

サンゴ礁再生プロジェクトは恩納村漁業協同組合の協力のもと、恩納村海域の2つのエリアでサンゴを育成しています。2024年11月の時点は1エリアのみの確認だったため、2025年6月のメンテナンスでは約半年ぶりに別エリアのサンゴの状態を確認できるタイミングでした。



漁協のみなさまより前情報として「生き残ってるぞー!」と教えていただいていたのですが、不安は尽きぬまま海中へ潜りました。結果としては、全体の2割ほどのサンゴが死滅していましたが、多くのサンゴが生残しており、成長がみられるという嬉しい状況でした♡なかには、サンゴに棲みつく生き物たちも観察でき、ほっと一安心です。引き続き、順調な生育を願い見守っていきたいと思います!

## 親サンゴの追加作製、プロジェクトリスタート!

サンゴ礁再生プロジェクトでは、サンゴの遺伝子分析を実施し、それぞれ遺伝子グループを判別したうえでサンゴを配置しています。サンゴの産卵のタイミングで、違う遺伝子グループの卵と精子が受精しやすくなることを目的として、このような配置にしています。



2024年では高水温の影響などで、多くのサンゴが死滅してしまいましたが、2つのエリアで展開していたことが功を奏し、幸いにも当館で判別できていたすべての遺伝子グループが1群体以上生存していました。それぞれのエリアで不足している遺伝子グループのサンゴを確認し、状態の良いサンゴから枝打ちを行いました。枝は陸上の水槽まで持ち帰り、新たな親サンゴを作製。その数、なんと約30群体!こんなに多くの親サンゴの作製する機会がこれまであまりなく、夢中で作業をしていると、気が付けば周囲は真っ暗!夜になっていました。翌日、サンゴを海に戻し、無事にリスタートをきる事ができたのでした。

## サンゴ返還プロジェクト 活動報告

### サンゴに迫る新たな脅威を確認！

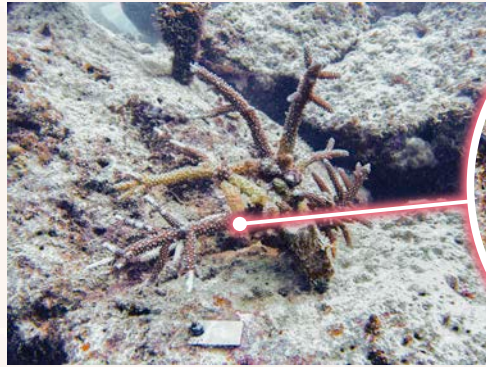
2024年の白化を乗り越え生き残ったサンゴたちの多くは、2025年6月、9月と順調な成長を確認できました。「…もしかしたら、このサンゴは白化耐性があるタイプなのかもしれない。このまま順調に育って繁殖へとつながるといいな〜」なんて思っていました。

悲劇はいつも突然に…。

2025年12月、3ヶ月ぶりに訪れた恩納村。「サンゴたちは元気かなあ…」と思いながら、サンゴを植え付けた場所へ近づいていくと、なんかちょっとサンゴの様子が違うような違和感。「なっ!!!!!!なんとっ!サンゴの一部が白い—————!!!」



6月、9月と順調な生育がみられたサンゴ



12月、一部の枝が白くなっている(矢印の箇所)のを確認



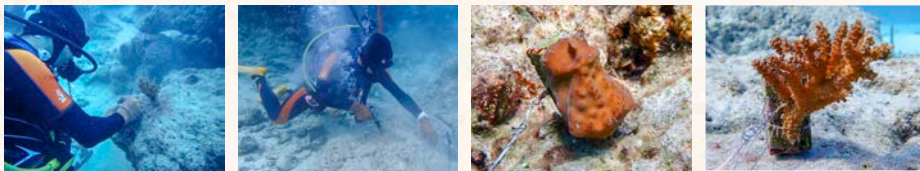
枝に付いていたのは…サンゴを食べる巻貝でした

夏場を超えた9月にも白化の影響はほとんどなかったうえ、サンゴの中央部分だけが白いという特殊な状況です。よくサンゴを観察してみると、白くなった部分に何やら付着。私たちは、その存在を知っていたので、すぐに状況を理解しました。

サンゴに付いていたモノの正体、それはサンゴを食べる巻貝だったのです。一難去って、また一難。貝類の駆除をすぐに行いましたが、この広い海の中、いつまた貝類に狙われるかはわかりません。「これ以上、狙われませんよう—————に!」と、私たちは強めに念を込めるぐらいしかできませんが、今はサンゴの抵抗力を信じて…。

続報はまた次の活動報告でご紹介します!

### 2025年12月、新たにサンゴを植え付けました!



サンシャイン水族館で育て殖やしたサンゴたちを5群体、沖縄へ返還しました。これまでのサンゴの育成データなどからスタッフで検討を重ねて、植え付け場所を選定。今回は3カ所に2種5群体のサンゴを植え付けました。2024年に多くのサンゴを失ってしまいましたが、まだゼロになったわけではありません。水族館で引き続き育成しているサンゴもいます。これからこの活動を通して、少しでもサンゴ礁の回復のお手伝いができるように推進していきます!

